

大津市中心市街地活性化基本計画（案）について委員からのご意見と大津市の考え方

	委員からのご意見	大津市の考え方
A 委員	<p>この基本計画（案）は、いつの発行日か。協議会設立総会日の以前であれば問題ないが、設立日以降であれば、p 90の設立予定、p 91の協議会の内容等、整合性の観点で全体をもう一度見直し、変更する必要がある。</p> <p>大津市が国に提出する段階は「基本計画」か「基本計画（案）」どちらで提出するのか。</p>	<p>本基本計画（案）の内容は、協議会設立以前のものです。第3回（次回）の協議会には、その時点で修正を加えたものを提示したいと考えています。</p> <p>内閣府の認定申請時に最終の修正を行い、国には「基本計画」で認定申請を提出し、認定を受けた時点で、「認定基本計画」となります。</p>
	<p>下記に一部修正箇所を記すので、変更をお願いします。</p> <p>(1) p 6. p 107 <表中> 「?滋賀県教育会館」 → 「滋賀県教育会館」</p> <p>(2) p 73 「昭和9年に大津公民館として」 → 「昭和9年に大津公会堂として」</p> <p>(3) p 83 3) 大津市都市再生本部の設置<文中> 間違いではないが、平易な言葉で表現してはどうか。 「市の喫緊の課題である」 → 「市の重要な課題である」</p>	<p>ご指摘のとおり修正を行います。</p>
B 委員	<p>p 45 [4] 数値目標指標の設定において ◎環境【CO₂削減】目標数値を加えられないか。 理由 ①滋賀県⇒環境こだわり県 NHK大津やびわこ放送も同様のポリシー ②大津市⇒下水道普及率全国トップクラス（琵琶湖の浄化に寄与） ③同友会⇒エコ・エコノミープロジェクト立ち上げ（経済団体をリード） ④滋賀銀行⇒環境大臣賞受賞、日本の上場企業の中でも先進的取組み ⑤「琵琶湖を生かす観光と環境共生のまちづくり」を目指すのであれば是非目標を設定してもらいたい。 ※「環境」対応で取り組みたいと考えていること（町づくり会社） ①ハイブリッドバス・電気バスの走行、人力車の走行、公共交通（京阪電車）の利用促進 ②タクシーのアイドリングストップ（全国初）⇒運転手の待合所を作る必要あり ③なぎさに「ビオトープ」づくり ④環境学習船 ⑤アークス・パルコでは常に環境関連映画を上映</p>	<p>国が閣議決定を行った「中心市街地の活性化を図るための基本的な方針（平成18年9月）」において、数値目標指標については、計画に定めた目標の達成状況を的確に把握できるように定量的な指標に基づく数値目標を設定することになっております。また、定期的にフォローアップしながら、数値目標が計画期間内に達成されているかどうかを判定する必要があります。ご提案いただいた理由の通り、CO₂削減目標を設定することは有用であると考えますが、本計画においては設定した3つの目標と、ご提案の指標との関連付けが難しいことや、現在基本計画に掲載し実施予定の事業によりフォローアップをしていくことが困難です。このため、計画全体の活性化の指標としてではなく、個別事業を行う上での目標数値として設定する方法もあるかと考えます。目標を設定する上では、事業主体者の負担などを含め、プロジェクト会議（専門委員会から名称変更）等で十分に検討する必要があると考えます。</p>

B 委員	<p>p 5 1</p> <p>[5] 数値目標の設定の(2) 町屋の修景・活用数のところに</p> <p>◎電柱・電線の地中化の目標数値を加えられないか。</p> <p>(理由)</p> <p>修景事業と切り離せないものであり、また住みよい、歩きやすい、街づくりには、欠かせないと考える。勿論、5年では、すべてをすることは無理であるが50年かけてでもやりたい事業であり、ぜひ目標設定してもらいたい。</p>	<p>国が閣議決定を行った「中心市街地の活性化を図るための基本的な方針(平成18年9月)」において、数値目標指標については、計画に定めた目標の達成状況を的確に把握できるように定量的な指標に基づく数値目標を設定することになっております。</p> <p>このことから、数値目標の設定においては、個々の事業における効果を積み上げて、達成の実現度を示す必要があります。本基本計画では、町家等修理修景事業や大津駅前商店街再生事業などにおいて個別事業の中で電線の地中化の検討を行っていきたいと考えていますが、電柱・電線の地中化に関して具体的な事業内容が決定しているものではありません。このような中で具体的な数値目標を定めることは困難です。</p>
C 委員	<p>びわ湖・大津エコセンターについて提案 別添資料のとおり</p>	<p>事業主体及び具体的な事業の進め方を協議し、その結果を計画に反映させたいと考えております。今後、協議会プロジェクト会議においても検討をお願いしたいと考えています。</p>
D 委員	<p>基本計画(案)では、「まちなか」の中での構想がうかがえるが、外から人を呼び込む入口でインターチェンジの文言は一語記載されていただけである。導線の整理から、一考、整備せねばならないと思う。</p>	<p>ご指摘のとおり、中心市街地への広域的なアプローチの観点からインターチェンジの整備の推進は必要です。</p> <p>しかし、インターチェンジの整備については、国や県を主体として別途、広域的な観点から計画され、決定されるものです。</p> <p>国が定める基本計画の計画期間は5年程度となっており、掲載する事業についても5年を目処に実現可能なものとの指摘を受けております。</p> <p>現状では、5年間の内に、市としての実行は困難であるため、本基本計画への記載はしておりません。</p>

E 委 員	<p>大津百町と琵琶湖を中心として、都市再生を図ろうという計画になっているが、事業展開に当たっては、中心市街地にある多様な地域資源を大津百町と琵琶湖に関連させることが必要だと考える。特に、市外や県外の人たちが見ても魅力ある計画にするために、中心市街地の地域資源で既に全国や関西圏に情報発信されているもの（例えば、びわ湖花火大会、大津祭、琵琶湖観光、疎水、大津事件、びわ湖ホールなど）を計画や具体的事業に生かすことが効果的だと考える。</p>	<p>ご指摘の通りであると考えており、2月の9日には、地域資源を生かした大津の活性化について、市民をはじめとした皆さんで共に考えることを目的に、「まちのストックを生かす中心市街地活性化基本フォーラム」などの開催も予定しています。今後も、ご意見の主旨を念頭に事業の掘り起こしを進めていきたいと考えています。</p>
	<p>中心市街地に近接する観光資源や地域資源（延暦寺、三井寺、石山寺、義仲寺、三橋節子美術館、大津絵、歴史博物館、伝統芸能会館、琵琶湖博物館など）を生かす戦略や事業も必要であると考えます。</p>	<p>ご指摘のとおりであると考えています。中心市街地に近接する観光資源や地域資源を中心市街地の活性化に生かすためには、中心市街地内にそれらと連携する基盤や魅力があることが前提だと考えています。本基本計画では、中心市街地内において、周辺と連携させる基盤や魅力を創り出す必要があると考えています。その上で、市観光計画等により周辺との連携を位置づける必要があると考えています。</p>
	<p>外国人向け長期滞在型町家宿泊施設整備事業があげられているが、これだけでなく、更に、国際的な情報発信や海外の観光客誘致の戦略や事業が必要と考える。</p>	<p>ご意見の通りであると考えています。今後も、ご意見の主旨を念頭に事業の掘り起こしを進めていきたいと考えています。</p>
	<p>p 80以降の〔2〕の具体的事業の内容について、表中、内容の項のスペースが小さいので、具体的内容が判りにくくなっている。</p>	<p>p 80以降の〔2〕の具体的事業の内容の記載様式については、国で定められた様式を用いていますが、もう少し分かりやすい記載方法を検討します。</p>
	<p>滋賀会館（平成21年度末をもって文化施設として用途廃止）、琵琶湖文化館（平成19年度末で休館）の今後の活用について、何らかの具体的事業として取り上げる必要があると思われる。</p>	<p>滋賀会館及び琵琶湖文化館の設置者である滋賀県と協議を致します。</p>
	<p>p 1（1）大津市の位置 アクセスについて、JR湖西線、京阪電車についても記載する。大津インターの存在に言及する。第二名神についても言及し、地図に記載する</p>	<p>本部分は、大津市の位置に関する記述を行う部分であり、関西中枢部への近接の程度を交通の利便性を用いて表現したものです。交通については、交通に関する現況分析の部分に記載しております。</p>
	<p>p 2 1）歴史と成り立ち 平成21年4月の中核市への移行について記載する。</p>	<p>中核市への移行に関する記載については、計画全体のボリュームのバランスを勘案しながら、検討いたします。</p>

E 委員	<p>p 3 (3) 大津市の地域資源 文化施設および文化の発信機能についても取り上げる。 (例えば、歴史博物館、市民会館、滋賀会館、琵琶湖文化会館、県民交流センター(ピアザ淡海)、大津祭など)</p>	<p>地域資源については、再度整理しなおして修正します。</p>
	<p>p 4 1) 歴史的・文化資源 「大津百町」は本計画の重要な柱であるので、各町の名称を一覧表にする。</p>	<p>歴史的・文化資源について再度整理しなおし、各町の名称を一覧表にし、記載致します。</p>
	<p>歴史的・文化資源は「大津百町」以外に数多くあるので、それを挙げておく必要がある。例えば、大津事件の碑、疏水、天孫神社、大津祭、びわ湖まつりとびわ湖大花火大会、社会教育会館、県庁舎本館(昭和14年建築)など。</p>	<p>地域資源については、再度整理しなおして修正します。</p>
	<p>文化施設はp 6に挙げられているが、文化資源として、そのソフト(事業活動)も含めて、ここで書いておくべきではないか。 例えば、市民会館、滋賀会館、びわ湖ホール(プロデュース・オペラ、ジルヴェスターコンサートなど)、しがぎんホール、大津曳山展示館、琵琶湖文化館など。</p>	<p>各施設でのソフト(事業活動)については、本計画における現況調査の位置付けや計画全体のボリューム、記載の必要性の優先度などを総合的に判断して、本計画への記載は見合わせたいと考えています。</p>
	<p>p 5 2) 景観資源 琵琶湖の景観は重要な景観資源であるので、ビューポイントを一覧表(できれば写真付き)にしてはどうか。また、琵琶湖汽船による湖上からの景観についても記述してはどうか。</p>	<p>ご指摘のとおり、琵琶湖の景観は最も重要な景観資源であるので、計画全体のボリュームのバランスを勘案しながら、代表的な景観について写真等を記載いたします。</p>
	<p>p 6 3) 社会資源や産業資源 中心市街地を縦横に走る京阪電車は、中心市街地の日常生活に密着した交通機関であり、活性化に重要な意義を持っているので、ここで記述してはどうか。</p>	<p>ご指摘のとおり、京阪電車は、中心市街地の日常生活に密着した交通機関であり、活性化に重要な意義を持っているので、p 19、交通に関する現状分析にその旨記載致します。</p>
	<p>p 6 3) 社会資源や産業資源 表中で、行政機関等に分類されている滋賀会館は文化・教養・観光施設に含める。ピアザ淡海も会議施設である県民交流センターがあるので、同様。また、民間のしがぎんホールもある。</p>	<p>ご指摘のとおり、滋賀会館及びピアザ淡海は文化・教養・観光施設に記載致します。</p>
	<p>p 7 主要な地図には、旧東海道、旧北国海道(西近江路)や主要な地域資源を明示する。</p>	<p>地域資源については、再度整理しなおして修正し、記載します。</p>

E 委員	<p>p 8 1) 中心市街地の現状</p> <p>大津祭、琵琶湖観光、市民会館、びわ湖ホールなど中心市街地の活性化に寄与している事業について、ここで記載しておくべきではないか。なお、びわ湖ホールへの来場者は19万人(18年度)</p>	<p>琵琶湖観光、市民会館、びわ湖ホールなどの事業は、それ自体の集客はあるものの現状では中心市街地の活性化に寄与しているとは言い難いと考えております。そのためこれらを活性化に生かせるものとするよう、本計画を策定しております。大津祭とそれを生かした曳山連盟等の中心市街地の活性化に対する取り組みについては、地域資源の部分に記載致します。</p>
	<p>p 17 観光客の入り込み</p> <p>年間の観光行事などのカレンダー(歳時記)を作成してはどうか。p 101の関連ソフト事業の他、大津祭やびわ湖ホールのオペラやジルヴェスターコンサートなども含めて。また、中心市街地の圏域だけでなく、延暦寺、三井寺、石山寺など近隣地域の行事などもある。</p>	<p>年間の観光行事などのカレンダー(歳時記)の作成は、活性化に向けてよいアイデアであると考えます。事業主体者を含め、今後、プロジェクト会議(専門部会を名称変更)を発足していただき検討していただくことも有効な手段であると考えています。</p>
	<p>p 19 駐車場など交通インフラの現状</p> <p>びわ湖ホール駐車場は849台の収容能力があり、現実的には公共駐車場としての機能も果たしているので、地図等に含めてはどうか。</p>	<p>ご指摘のとおりですので、月別の利用台数等、必要な資料をいただき、地図等を含めます。</p>
F 委員	<p>私たち曳山連盟は、平成16年に法人化したとき以来、活動方針のひとつに中心市街地の活性化を掲げている。これは、400年の歴史と伝統を誇る大津祭を今まで繋いできたものは町衆の心意気そのものであり、この心意気を大切に守り育てることは、ひいては中心市街地が活性化することである。このような理念から、曳山連盟は中心市街地活性化に積極的に取り組んでいく決意である。</p>	<p>大津百町の歴史文化を生かすくらしと賑わい創出を基本方針とする本計画推進において大津祭は、重要な役割を担うと考えております。</p> <p>地域資源について、再度整理しなおして修正し、大津祭についても記載致します。</p>
	<p>町家じょうほうかん整備・運営事業として、平成19年度に大津祭曳山連盟が大津市より町家情報拠点試験運営の業務委託を受け、滋賀県建築士会大津支部「まちづくり委員会」の協力を得て5件の町家の実測をさせていただきましたが、この事業につきましては、地元密着の団体として引き続き運営させていただき、町家の利活用や再生に寄与したいと思っております。</p>	<p>町家じょうほうかん整備・運営事業については、町家活用推進の具体的事業として本計画にも位置付けています。本事業の推進には地元密着の団体の方々の力が不可欠であり、来年度以降も、大津祭曳山連盟、滋賀県建築士会大津支部をはじめとした地元団体のご協力のもと進めていきたいと考えています。</p>

G 委 員	<p>計画（案）に記載されているいろいろの案件につき、必要とされる金額が表示されていませんがこれでよいのですか？</p>	<p>計画（案）に記載されている案件につきましては、金額までの記載は必要とされていません。個別事業の金額については、補助申請時などにおいて別途記載し、検討されます。</p>
	<p><u>p 8に平成12年1月旧大津市中心市街地活性化基本計画が策定されたと記載があり、わいわい会議が平成15年6月ー11月に行われ、大津まちなか元気回復委員会も平成15年12月に発足した。しかし、残念なことにp 32に未達率70%とある。その反省点7項目の記述があり、今回は同じ間違いをしないように努力する必要がある。特に注意すべきはTMOが組織されなかったことだと思う。</u> 今回は専門部会を早急に発足し、各部会の部長にやる気があり且つ責任感の強い人を指名すべきである。各部長が自分の部会に誰を引っ張り込むか交渉キャンペーンする必要がある。一方プロジェクト達成率をもっと高める為に今回はプロジェクト数を絞り込むということが必要ではと考える。</p>	<p>（計画部分について） 国が定める基本計画の計画期間は5年程度となっており、掲載する事業についても5年を目処に実現可能なものとの指摘を受けております。 そのため本基本計画では、計画の達成率や活性化の実効力を高めるため、事業主体を明確にし、目標数値を設定し、フォローアップを行う仕組みとなっております。このため本基本計画の具体事業においても事業主体及び事業内容が明確であり、実現性の高いもののみを記載して計画としています。 旧基本計画におけるTMOと同様の役割を担うまちづくり会社や中心市街地活性化協議会が組織されましたので、協働し、計画を推進したいと考えています。 （協議会部分については別途回答）</p>
	<p>p 21の地域住民等のニーズ把握に関するアンケート調査結果が出ているが、回収率34%ではあまりにも低すぎこれでは話にならない。なんとか工夫して60%以上に持っていく必要があると考える。</p>	<p>ご指摘のとおりです。回収率自体が中心市街地に対する市民の関心度合いを表していると考えております。中心市街地の活性化について関心を持っていただき、アンケートに答えてくださった方のご意見を真摯に受け止め、活性化に向けて取り組んでいくことが大切だと考えております。</p>
	<p>p 33に7つの都市核7つの地域核とありますがこれはどこですか？</p>	<p>7つの都市核7つの地域核については、大津市総合基本計画構想で規定しており、都市核は、堅田、坂本、西大津、大津・浜大津、膳所、石山、瀬田の7つ、地域核は、近江舞子、木戸、和邇、雄琴・仰木、唐崎、南郷・田上、大石7つとしています。本計画においては、p 103、104にこれについての記述を行っております。</p>
	<p>P 45ーP 56には数値目標を設定した事は良いことだと思う。</p>	<p>ご意見に留意し、今後も計画の策定を進めていきたいと考えています。</p>

G 委 員	<p>P 4 4 (2)、6 4 (4)、6 5、6 6に福祉、厚生、子育てに関する記載があります、従ってP 4 2にこれに関する記載をしてはどうか。</p>	<p>P 4 2において、オレンジ色枠内を福祉、厚生、子育てに関する記載としております。</p>
	<p>P 4 2及び6 7に民間人材研修センター整備事業とありますがこれはどのような事業か。</p>	<p>滋賀銀行が事業主体であり、石山にある研修所を中心市街地内の中央二丁目に移転されるものです。これに合わせて周辺の道路整備を行うものです。補助金等の活用はされませんが、中心市街地の活性化に寄与すると考えられるため、本計画に記載しています。</p>
	<p>P 5 7 (4)、6 0に大津港周辺未利用地活用事業とありますが、これはどのような事業か。</p>	<p>まちづくり会社を事業主体として、アークス横の県有地をはじめとした大津港周辺の未利用地において、イベントを含めた活性化に寄与する事業を創出するものです。今後、協議会プロジェクト会議においても検討をお願いしたいと考えています。</p>
	<p>P 6 2、7 7に湖岸公園活用事業、オープンカフェ、P 6 3にコミュニティーガーデン整備事業とありますが、これに関しては何れも注意深い事前調査をやるようお願い致します。</p>	<p>湖岸公園活用事業においては、担当課において適切な調査を行います。オープンカフェ及びコミュニティーガーデン整備事業については、事業主体はまちづくり会社となりますが、マーケティングも含め適切な事前調査を行っていただけるものと考えています。</p>
	<p>P 7 7に琵琶湖湖畔活用エコツーリズムとありますがこれはどのような内容のものですか。</p>	<p>琵琶湖汽船をはじめとした民間事業者を事業主体とした事業であり、詳細はこの度C委員よりご提案(本資料後半に添付)をいただいています。今後、協議会プロジェクト会議においても検討をお願いしたいと考えています。</p>
	<p>P 7 8に観光コミュニティービジネス事業とありますが、この内容はどのようなものですか。</p>	<p>まちづくり会社をはじめとして周辺の民間企業が事業主体となり、食宿施設や遊戯施設、社会教育会館やオープンカフェなどを一体として収益性のある事業を行うものであり、今後、協議会プロジェクト会議においても検討をお願いしたいと考えています。</p>
	<p>P 8 7に社会教育会館につき市は施設整備をするが、その後はまちづくり会社により運営されると記載あり。この点事前に責任分担明確化を頼みます。</p>	<p>新たに条例等を設置し、明確に責任分担を行いたいと考えています。</p>

H 委 員	<p>大津らしいことにこだわりたい思い切って地方色、田舎と地方都市の混合都市としての特色を出してのモデルになることを夢見ます。どこにいても同じスーパーや外食産業にコンビニが巾をきかしている街にはしたくないと思っています。</p>	<p>大津らしい活性化を進めていくことは重要であると考えております。</p>
	<p>琵琶湖に面した都市としての特徴を最大限に生かすように配慮されたい。</p>	<p>ご提案のとおり、琵琶湖に面した都市としての特徴を最大限に生かすように配慮し計画策定を行っています。</p>
	<p>お客様が商店街を訪ねられることが非常に多いのですが日曜日、丸屋、菱屋商店街はご案内できない状態です。</p>	<p>今後の参考とさせていただきます。引き続き、民間事業者の活性化への参画を呼びかけていきたいと考えています。</p>
	<p>明日都浜大津は確かに人口流通は増えています。若い世代もすばらしい保育園があるため来られています。高齢者が集える施設例えばお風呂など出来ないのでしょうか。</p>	<p>今後の参考とさせていただきます。引き続き、事業の掘り起こしを進めていきたいと考えています。</p>
	<p>人間は本能的に身体を動かすことに積極的です。皆で参加できる近江音頭など一年に一度のイベントではなく、観光客にも紹介できる場所が欲しいですね。阿波踊りや八尾風の盆ようにお客を寄せるパワーを持たせないともったいないです。</p>	<p>今後の参考とさせていただきます。引き続き、事業の掘り起こしを進めていきたいと考えています。</p>
	<p>琵琶湖を生かす観光と環境共生のまちづくり、環境面での具体案が今ひとつ足りないように思いますが、特に他府県への小学生対象の環境学習など考えたいです。</p>	<p>ご提案の内容につきましては、個別事業：琵琶湖湖畔活用エコツーリズム事業の中で協議を行っていただきたいと考えています。</p>
	<p>活性化に向けてのほとんどの意見など出尽くしていると思われませんが、やはり大津駅周辺、大津らしい観光地として駅の近辺整備着手が早急だと思われます。</p>	<p>ご意見のとおりであると考えています。今後も、ご意見の主旨を念頭に事業の掘り起こしを進めていきたいと考えています。</p>
	<p>琵琶湖、大津市の景観を阻害するマンション他の高さ制限も急がれるのではないかと。住宅が増えて人口増加に繋がるのは大歓迎なのですが高層建築はちょっと・・・</p>	<p>建築物等の高さ制限を行うには、都市計画により総合的に判断して行う必要があるため担当部局において慎重に検討を行っています。大津百町のエリアにおいては、住民が主体となり、建築物等についてルール作りを行う協定の締結を推進しており、本計画においては、協定締結区域の建築物の修理修景に助成を行うなどして町家にふさわしい街並みの形成の推進を図っています。</p>

H 委員	<p>人口増に伴い若いカップルも当然増えるが、安心して住み続けられる街として産婦人科医の確保も必要だと思う。聞くところによると滋賀県が産婦人科医の数ではワーストワンということであるが、若いカップルは不安だ。</p>	<p>今後の参考とさせていただきます。 引き続き、民間事業者の活性化への参画を呼びかけていきたいと考えています。</p>
	<p>観光客は是非とも京阪電車を利用して浜大津周辺に遊びに来て欲しいが、商店等で割引料金など設定できないものか。</p>	<p>今後の参考とさせていただきます。 引き続き、民間事業者の活性化への参画を呼びかけていきたいと考えています</p>
	<p>オープンカフェは中心からあまりはなれると（電車の駅など）利用者が来にくい（打出の森までのアクセスが心配です）ですね。一日客数40組×5は甘いのではないかと。</p>	<p>事業主体は、まちづくり会社を予定していますが、適切な事業計画がなされるものと考えています。</p>
	<p>イルミネーションは大変人気がありますし、個人的には大好きであるが、環境問題に少しふれるように思われます。（電力使用のため）が、如何か。環境と共生を前面に出すための整合性をはっきり示す必要があるように思う。</p>	<p>例えば、消費電力の少ない電球を用いるなど、出来る限り環境に配慮すれば、環境と共生を全面に出しても整合性は取れると考えております。</p>
	<p>なぎさ公園整備については、前市長山田豊三郎氏の尽力により、市民の憩いの場、又観光客や来津者のプロムナードとして大津市民の誇れるビュースポットになった。永年市政のために尽力いただいた敬意を表すための記念として銅像を作れるよう考えて欲しい。設置場所だけでもあらかじめ確保し準備に向かってほしいと市民として切に思う。</p>	<p>設置を推進いただく場合には、費用負担をはじめ、市民理解を得ていただくことや関係課との協議などの調整をしていただく必要があると考えています。</p>
I 委員	<p>数ある計画を拝見し、実現されることを切に望む市民として特に、下記の点に着目しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コンパクトで活力のある市街地形成 ●有機的なよさ（ひとが根付き、ひとひきつける有機体） 目に見える範囲の点形成から（線）、面へ広げていく。小さなことから目に見える達成感の積み重ねが住む人のモチベーションを高め、訪れる人の「また来よう気分」を誘いだしてほしい。 ●中心市街地から大津市全体への波及 すべての要素が集約する中心市街地で 魅力ある組み合わせの“妙”コーディネート力を望む。 ●オンリーワンの琵琶湖の有効活用 琵琶湖観光客、地球環境を意識する拠点としてぜひとも全国向け、海外向けの発信を期待する。 ●協働まちづくりの発展 住んでみたい、住み続けたい町、安心安全 これは住民の体感からの活動発信、発進でなければ根付きません。現在あるさまざまな市民活動を有機的に、有効に結びつけるコーディネーションを期待します。 	<p>ご意見の主旨に留意し、今後も計画の策定及び推進を進めたいと考えています。</p>

J 委員	<p>自分の住居（逢坂学区・下栄自治会）を中心に、この活性化問題を整理すると、以下のようなになる。用事や買物で出かける場合、徒歩で約10～15分圏内に、大津駅、浜大津、上栄町駅がある。通行は、大津駅（平和堂）に行く場合、国道161号か寺町通を通ることになる。</p> <p>京都の玄関口である大津駅前～琵琶湖までの回遊性の創出と大津駅前・護岸を結ぶ都市機能の集約・複合化 並びに 大津駅前～大津港を結ぶ動線のにぎわいの三つの文言が重要となる。特に、この動線が活かしきれていない部分が気になる。従って、何に重点を置き、どこに資本投下をするのかがカギになるのではないかと。総花的な資本投下は、旧基本計画では、活性化が進まなかったという反省があるように。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>参考</p> <p>20.1.30 京都新聞</p> <p>滋賀県中心市街地活性化懇談会（座長 滋賀大学名誉教授 富田光彦氏）</p> <p>3月までに県知事に提出</p> <p>まちづくりの方向性</p> <p>「循環」⇒ 回遊性の創出、動線のにぎわい、都市機能の集約・複合化</p> <p>「安全・安心・便利」⇒ 商店街の活性化（寺町商店街）</p> <p>「独自性」⇒ 大津のまちへ来てよかったなあ（来津者、観光客など）</p> </div>	<p>ご指摘のとおりであると考えています。</p> <p>本基本計画では、計画の実現性を特に重要視して策定していきたいと考えております。</p> <p>総花的な資本投下ではなく、計画期間である5年間の中で実現可能な事業への資本投下を行います。</p> <p>なお、国が定める基本計画の計画期間は5年程度となっており、掲載する事業についても5年を目処に実現可能なものとの指摘を受けております。</p>
K 委員	<p>特に意見は無いが、具体的事業の実施主体や時期は、このままの表現でよいのか。</p>	<p>具体的事業の実施主体及び時期については、現在最終の協議を行っております。</p> <p>認定申請時には、実施主体には具体的な事業者名を、時期は具体的なスケジュールに基づくものを記載する必要があります。その際、5年以内に実施の可能性が低いものは、計画から削除したいと考えています。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">L 委員</p>	<p>「隣の隣町に行くには、隣町を通らないと」ここ大津市は南北45キロと細長い「まち」であるため合併を重ねる事で現在の大津市誕生の要因と思う。</p> <p>個々の「旧の村・町」にはそれぞれの歴史があり、それに続く誇りがあることでしょう。このところをはずした「まちづくり」はうまくいかないと思います。そして「中心市街地」というより「旧町名の大津」は、扇でいうまさに「要」の位置にあったのでしょうか。時代の流れで生活様式が変わり「なにもわざわざ大津まで・・・」といった風潮からも「さみしい大津」になっていったのでしょうかね。その流れを戻そうとするにはやはり時間的にも「今しかない！」と思います。</p> <p>私たちの会が誕生した10年前には、ここまでの危機感はありませんでした。「大津百町」などといった名詞も耳にはしませんでした。「大津百町物語」の本が誕生などずっと前に、ただ「大津に百の町名があった」ことを足で訪ねたのです。歩けば歩くほど「面白い「まち」」に映り次から次に足が進み原稿が書けたことを思い出しました。大市中が戦火にあって焼け野原状態であったならば、「まち」に対する考えもどうだったろうか。こんなにも「歴史の証人的な事例」が残っている所はそうそうないのですから大切にしなければ、それこそ勿体ないことですよね。中心市街地活性化基本計画の中に、パレットに絵の具を並べたような瀬田から北小松・・・といった町にも何らかの流れを注いだものにしていただきたいと思います。</p>	<p>商業機能や都市機能が集積している中心市街地の衰退は本市全体の衰退に繋がると考えています。本基本計画により、まず中心市街地を活性化させ、その活力を大津市全体に広げていきたいと考えています。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">M 委員</p>	<p>オープンカフェは、なぎさ公園でよいのですが社会教育会館内コーヒー店はもちろんのこと長等から八丁の10商店街の中の空店舗等でもするように考えたい。カフェだけでなく軽食も販売する。</p> <p>コミュニティーバスは現在病院から駅の報復ですが各商店街の一番いい場所にバス停を設置したい。</p>	<p>今後も、ご意見の主旨を念頭に事業の掘り起こしを進めていきたいと考えています。</p> <p>今後、協議会プロジェクト会議を発足していただき検討していただくことも有効な手段であると考えています。</p> <p>なお、社会教育会館内の店舗種別については現在未定です。</p> <p>バス事業者と協議をしていただき、計画期間以内の実現の目処が立ち次第、協議会で協議いただき計画に反映していきたいと考えています。</p>

N 委 員	<p>p 5 古都に指定された理由として、1 段落目（大津市は、琵琶湖と比良山系の・・・まちなみ景観を有している。）に述べられているが、真の指定理由なののでしょうか。違和感があったのでネットで検索してみました。</p> <p>「国土交通省の諮問機関・社会資本整備審議会では、「大津に都（近江大津宮）がおかれた5年間は内政、外政面での改革期」、「仏教文化の中核をなした社寺が集積している」として指定を答申」（HP から転用）と、書かれていますし、平成15年6月議会の土木交通部長答弁要旨にも、「大津市が古都指定の候補地となった理由は、西暦667年に天智天皇が大津宮に遷都し、5年間という短い期間ではありましたが近江令を制定するなど政治の中心であったこと、そして、三井寺や日吉退社など、その周りの樹林地が一体となって歴史風土を今日まで伝えてきたことなど」と書かれています。「琵琶湖とまちなみ・自然景観」が指定理由ではないように思いますが、いかがでしょうか。</p>	<p>古都指定された理由としてはご指摘のとおりであります。この部分では、古都指定された理由ではなく、古都指定と併せて、その後に景観法に基づいて「大津市景観計画」を策定し、市域全域にわたり良好な景観を守り育てていく取り組みを行っていることについて表現しているため、このような表現としています。古都指定に係る部分としては、「季節により表情を変える山なみと山麓の緑にとけ込む社寺、かつての繁栄を伝える歴史的なまちなみなど」がこれに当たると考えています。</p>
	<p>p 3 5 ②の文頭「大津市の誇る宿場と港町の2つの顔を持った大津百町の歴史と文化を未来に向けて保存・活用し、・・・」と記載されていますが、「宿場」「港町」の歴史や文化は、ほとんど残ってないように思います。「人や物資が集積し、宿場町と港町として繁栄し、それから発展した町人のまち」ではないかと、感じていますが、歴史的な観点から間違いない表現なののでしょうか。</p>	<p>再度整理しなおして修正し、記載します。</p>
	<p>「大津百町」という特徴ある中心性には大賛成ですが、市外の人はもちろん、市内の方でも、わかりにくいように思います。つまり、京町〇丁目、中央〇丁目エリアでは、旧町名が中年以上の、しかも生まれ育った人にしか、いまや分からなくなっているからです。基本計画の区域の住む人の多くは、今では、「〇〇町の某です」と自己紹介されるように、自分たちの町名に誇り持っています。また、自治会も旧町内単位です。是非、基本計画の中に旧町内名に戻すことを盛り込んでいただきたいと強く希望します。</p>	<p>町名の変更については、そのような機運が高まり、実現性が高まった場合には計画への記載は可能であると考えますが、現在のところ実現性が低いため変更を計画の中に盛り込むことは考えていません。</p> <p>しかし、ご意見の主旨は、そのとおりであり、歴史的・文化資源について再生整理し、各町の名称を一覧表にし、記載致します。</p>
	<p>p 3 1～3 2の旧基本計画の評価・分析は、大変率直で、正しい内容だと思いました。しかし、今回の基本計画にうまく反映されていないような印象を受けます。難しいかもしれませんが、旧基本計画の評価・分析結果をもっと反映した表現が望まれます。</p>	<p>p 3 1～3 2から計画の基本目標に至るプロセスについて、説明不足であると考えますので、整理し、追加修正をしたいと考えています。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">Q氏（オブザーバー）</p>	<p>実施途中で基本計画を見直す体制、見直す方法を記述すべきではないか。基本計画での現事業が100%実施され、目標数値が達成されるのが望ましいが、現実には事業が頓挫し変更を余儀なくされる場合も多々あります。</p> <p>一方、密接に関連する新たな制度が国等で整備、適用されるケース、あるいは新たな実施主体の立ち上がり等、目標数字は同じだとしても、その過程は常に変わってくるものと思われます。（※例えば私が所属している都市機構でもまちづくりを完遂するため支援ツールは常に変更修正が繰り返されています。）計画内容をローリングしながら、事業内容を組替えていくことの出来る検討体制、その方法が当初計画以上に重要になると思います。</p> <p>そのローリング検討体制、方法を明確にしそれに沿って活動することにより、結果として5年後の活性化が達成されたということになると思います。</p>	<p>ご指摘のとおりであると考えています。</p> <p>基本計画は、協議会等において毎年度ごとにフォローアップしていきたいと考えています。それに関する協議会の体制については、第2回協議会（本会議）にて検討をいただきます。</p> <p>計画への反映につきましては、関連部局との調整を図りながら検討していきたいと考えています。</p>
	<p>P80</p> <p>まちなか駐車場の整備がもう少し必要ではないか。</p> <p>観光・賑わいという観点では公共駐車場だけに頼るのではなく、一定マイカーの役割も認知した上で、観光客の入れ込みを図る必要があります。そのため、駐車場の整備については浜大津周辺だけでなく、町家が集積する付近での駐車場の確保も必要と考えます。</p> <p>適地がすぐに確保できず事業化が見えない状況であれば、空閑地の発生に併せ観光対応の駐車場を誘導する、その方策を検討するということが記述できないでしょうか。</p>	<p>町家の利活用を図る上では、土地の収益を上げるため町家を取り壊し、安易に駐車場として活用し、街並みを壊すということが強く懸念されています。空閑地は駐車場としてではなく、出来る限り住居や店舗など活性化の源となるような活用のされ方が望ましいと考えており、このため、駐車場の整備は計画的に推進する必要があると考えています。</p> <p>駐車場の計画的な誘導につながる事業と併せ、公共交通を推進する事業の掘り起こしを進めていきたいと考えています。</p>

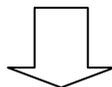
その他事務局への要望と事務局の考え方

	委員からのご意見	事務局の考え方
A 委 員	協議会の年度スケジュールをつくる（協議事項とそのスケジュール） 平成19年度、新年度（平成20年度）について	ご指摘を受け、第2回協議会（本会議）での議題とさせていただきます。
	委員の情報習得レベルを平準化する手段を計画する。 ・実施主体と「まちづくり交付金」 ・事業提案とそのフロー図（受付、審査、協議、申請、認定、フォロー、窓口等を含む） ・計画期間（平成20年4月～平成25年3月・・・5ヶ年）とあるが、現在、提案にでているもの以外に提案されてくる補助対象事業は、どのように取り扱うか、その方法、時期、補助交付金等はどのように考えるのか。	ご指摘を受け、第2回協議会（本会議）での議題とさせていただきます。
	協議会の運営要領を整備すること 例えば、協議の進め方等 （“みずとみどりの研究会”において提唱されているもの<NPO 法人水環境北海道より>を下記するので参考までに）	ご指摘を受け、第2回協議会（本会議）での議題とさせていただきます。
	<p>参加者の自由な討議を保証し、実りある会議とするため、以下に示す「3つの原則」「7つのルール」により進めます</p> <p>○3つの原則</p> <p>①自由な発言 ②徹底した論議 ③合意の形成</p> <p>○7つのルール</p> <p>①参加者の見解は活動団体井の公式見解としない</p> <p>②特定個人・団体の“つるしあげ”は行わない</p> <p>③議論はフェアプレイの精神で行う</p> <p>④議論を進めるにあたっては、実証的なデータを尊重する</p> <p>⑤問題の所持を明確にした上で、合意を目指す</p> <p>⑥現在係争中の問題は、客観的な立場で事例として扱う</p> <p>⑦プログラムづくり当たっては、長期的に取り扱うものおよび短期的に取り扱うものを区別し、実現可</p>	
	専門部会設立の具体的な組織化、担当者、運営、フォロー、具申等々の進め方？	ご指摘を受け、第2回協議会（本会議）での議題とさせていただきます。 専門部会は混乱を避けるため、プロジェクト会議に名称変更を考えています。

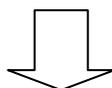
D 委員	<p>今回の活性化を図る絵柄で、JR大津駅から寺町通り、社会教育会館から、琵琶湖ホールの中字型構想がいられていますが、拠点となるJR大津駅では、駅前広場に人を集めにくくしています。いろいろな手続きはありますが、大津市、又は協議会からの働きかけで集まりやすい対策をたてねばならないと思います。</p>	<p>ご指摘のとおりであり、今後、協議会プロジェクト会議（専門部会からの名称変更を検討しています）を発足していただき検討していただくことも有効な手段であると考えています。</p>
G 委員	<p>P 8 に平成 1 2 年 1 月旧大津市中心市街地活性化基本計画が策定されたと記載があり、わいわい会議が平成 1 5 年 6 月— 1 1 月に行われ、大津まちなか元気回復委員会も平成 1 5 年 1 2 月に発足した。しかし、残念なことに p 3 2 に未達率 7 0 % とある。その反省点 7 項目の記述があり、今回は同じ間違いをしないように努力する必要がある。特に注意すべきは TMO が組織されなかったことだと思う。今回は専門部会を早急に発足し、各部会の部会長にやる気があり且つ責任感の強い人を指名すべきである。各部会長が自分の部会に誰を引っ張り込むか交渉キャンペーンする必要がある。一方プロジェクト達成率をもっと高める為に今回はプロジェクト数を絞り込むということが必要ではと考える。</p>	<p>(協議会部分についてについて) ご指摘を受け、第 2 回協議会（本会議）での議題とさせていただきます。 専門部会は混乱を避けるため、プロジェクト会議に名称変更を考えています。 (計画部分については別途回答)</p>
F 委員	<p>大津祭曳山展示館の東側隣接地が空地となっており、売りに出ていると聞いていますが、奥の石積みや曳山展示館との連携を考え、大津市が買い取っていただけるものならば、観光的、経済的にもきっと中心市街地の活性化に繋がるものと確信します。この協議会において、土地利用の討議をしてはどうでしょうか。</p>	<p>ご指摘のとおりであり、今後、協議会プロジェクト会議（専門部会からの名称変更を検討しています）を発足していただき検討していただくことも有効な手段であると考えています。</p>
O 委員	<p>大津駅前商店街でも昨年末に活性化委員会を立ちあげました。自治会、商店街、相い寄って会合を開いております。その中で決まったことは、 ①バリアフリー化による歩道の拡幅のため、アーケードを撤去、車の一方通行化 ②アーケード撤去後のファサード整備の実施。 ③ハード面だけでなく、ソフト面でまず、空き店舗対策として外部へ働きかけることが必要 ④多機能的に使用できるコミュニティ施設の建設（基金を流用して） 只今、一方通行化を近隣自治会に答申している段階です。今後、これらの計画を全体の構想をいかに関連づけしていくか。協議会でも早急に議論されることを希望します。</p>	<p>ご指摘のとおりであり、今後、協議会プロジェクト会議（専門部会からの名称変更を検討しています）にて検討していただきたいと考えています。</p>

P 委員	<p>先日の初めての中心市街地活性化協議会の中で、大津駅西地区の事業は、現在、進行中ですが、今後、民間からの事業の相談・提案も、現在進行中の事業でも可能なか？民間からの事業の相談・提案を受けて、どのようにして、調整を行い、最終決定は、何処で行うのか？又、決定を行う基準となるものは何か？</p>	<p>ご指摘を受け、第2回協議会（本会議）での議題とさせていただきます。</p>
L 委員	<p>委員の皆様は様々な経験と知識をお持ちの方ばかりですが、もう少し若い年齢層の方も入っていただけたらいいのではないでしょうか。これからの「大津」を担って行って下さる若い方の気持ちも聞いてみたかったです。</p>	<p>今後、中心市街地活性化に関する関係者等については協議会の議を経て、協議会委員として参画していただくことを予定しています。若い年齢層の方の参画も呼びかけていきたいと考えています。</p>
R 氏 (オブザーバー)	<p>特に計画内容について、意見はございませんが、市街地再開発事業、複合的生活支援センター整備など当機構でご支援可能と想定できる事業もあるようですので、今後、事業の立ち上げに向けて、必要に応じてご相談させていただくと幸いです。</p> <p>また、金融的な支援ではなく、地域住民等のまちづくり事業への助成を行う基金等を支援する「住民まちづくりファンド」もございますので、こちらも含めて、ご検討いただけますと幸いです。</p>	<p>今後、ご協力をお願いしたいと考えています。</p>

大津市中心市街地基本計画
琵琶湖岸の活用
琵琶湖岸・港における集客・交流機能の強化



大津港周辺に、エコセンター機能を
「びわ湖・大津エコセンター」



環境学習・エコツーリズムによる交流・集客

環境関連 NPO・学生が集まる仕組みの場を創ることにより
環境学習・エコツーリズムによる集客を図る

《活用》

大津港港湾施設
大津港港湾業務用地
湖岸公園
社会教育会館
琵琶湖文化館

《事業》

環境・環境学習支援事業〈県・市・NPO・まちづくり会社・民間〉
湖の駅〈まちづくり会社〉
環境学習船〈民間〉
エコツーリズム〈NPO・民間〉

《連携》

滋賀県環境学習支援センター
琵琶湖博物館・水環境科学館・琵琶湖環境研究センター
南郷水産センター・アクア琵琶

びわ湖・大津エコセンター

1. 滋賀県環境学習支援センターの誘致

びわ湖・大津エコセンターの中核として「滋賀県環境学習支援センター」を誘致する。

○滋賀県環境学習支援センター <http://www.pref.shiga.jp/d/ecolife/kankyou/>

滋賀県は、平成16年、「持続可能な社会づくりに向けて主体的に行動できる人づくり」を目標に環境学習の展開の方向を定めた「滋賀県環境学習推進計画」を策定し、平成17年、条例および計画に基づく環境学習の拠点施設として、滋賀県環境学習支援センターを開設した。現在、矢橋人工島の水環境科学館内で環境学習推進に向けて支援活動や情報提供を行っている。

2. 環境学習の担い手に「場」を提供する

NPO,学生等の環境学習の担い手の活動の場として、大津港湾施設、琵琶湖文化館、社会教育会館を活用する。その活動の中心に、「滋賀県環境学習支援センター」があるという仕組みとする。

3. 人を集める

1. 環境学習では

- ① 滋賀県内の児童・生徒・学生
- ② 琵琶湖・淀川流域2府4県の児童・生徒・学生
- ③ 全国からの修学旅行

2. エコツーリズムでは

- ① 全国がターゲット
- ② アクティブシニアがメインターゲット

3. その他のエコセンター事業部門の機能

①環境学習船・・・湖の上での環境学習と、各拠点を湖で結ぶ担い手として重要な位

②「湖の駅」事業

国土交通省の琵琶湖・淀川流域再生事業の考え方。

http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/biwayodosaisei/05pdf/01_0.pdf#search='湖の駅 琵琶湖'
県所有港湾用地を10年間の暫定活用。中心市街地、琵琶湖、京都の結節点となる。

- ・湖岸、ビオトープのエントランス機能
- ・駐車場(特に大型バス)、トイレ、情報コーナー、飲食・売店
- ・「身土不二」をコンセプトに、大津の地産商品で展開

③“LOHAS” びわこデザインセンター

- ・例えば、琵琶湖文化館の活用。
- ・陶磁器、木工、漆器、染物等、滋賀県発の LOHAS 志向デザインの紹介、発売

びわ湖・大津エコセンター

大津市中心市街地活性化基本計画のうち、琵琶湖岸の活用「琵琶湖を生かす観光と環境共生のまちづくり」の基本コンセプトとして、大津港及び周辺エリアに

「エコセンター」の概念を提案する。

○ エコセンターとは

地域における環境学習の拠点。地域の環境情報の提供や市民の環境活動の場を提供する。外国では「代替エネルギー」「有機農法とハーブ」「炭鉱跡地の再生」「さまざまなエコテクノロジー」など、テーマを決めて表現し、そこで「持続可能性」を勉強する場となっている場合が多い。日本では、環境保全活動・環境教育推進法に基づき各自治体により導入が実施・検討されている。環境保護、省資源・省エネルギーなどの循環型社会を目指す環境学習の拠点として、またリサイクルの推進啓発の場として設置される場合もある。

○ びわ湖・大津エコセンターとは

環境の聖地「琵琶湖」を学びの場としての環境教育の拠点として位置づけ、大津市中心市街地活性化の一つのテーマとし、「環境」で人が集まる仕組みの中核となる。

今日の環境問題の解決や持続可能な社会の実現のためには、持続可能な社会づくりに向けて主体的に行動できる人づくりをめざす環境学習の推進が重要であるとされている。

びわ湖・大津エコセンターは、琵琶湖を持つ滋賀県の、県都という地域の特性を活かして多様な環境学習の機会を提供するとともに、既に取り組みされている環境学習の場や機会づくりを担っている主体への支援をはじめ、各主体が連携・協力できるようコーディネートする機能を持たせ、それが主体となり、環境学習・エコツーリズムの集客を図る。

○ 環境学習・エコツーリズムの担い手として

・滋賀県や琵琶湖・淀川水域2府4県の子供たちが「命の水」の大切さを学ぶ「場」。

* 琵琶湖博物館、琵琶湖環境科学研究センター、水環境科学館、アクア琵琶、南郷水産センターと湖上学習等との連携。

・京都、滋賀の学生が「環境学」を学ぶために集まる仕組みの「場」

- ・その学生が人を集める仕組み → 集客
- ・環境 NPO が集まることにより、その人々が人を集める仕組みづくり
- ・社会教育会館、琵琶湖文化館等の再活用提案

エコセンターエリアイメージ

エコセンター

